

安心・安全な社会の実現に向けた情報通信技術のあり方に関する調査研究会
第3回議事要旨

1 日 時 平成18年7月10日(月) 11時~12時

2 場 所 三田共用会議所 第四特別会議室

3 出席者

(構成員、敬称略) 齊藤 忠夫、大西 吉久、大森 慎吾、小川 雄二郎、柴崎 亮介、高畑 文雄、日佐 和夫、堀川 康、前野 春枝、室崎 益輝、森川 博之、渡邊 正樹

(総務省) 松本技術総括審議官、西本宇宙通信政策課長、竹内研究推進室長、齊藤宇宙通信政策課補佐、翁長研究推進室補佐他

その他、オブザーバとしてメーカ・事業者や関係省庁が約20名参加。

4 議 題

(1) 中間とりまとめ(案)について

(2) 今後の進め方について

5 議事内容

<議題(1) 中間とりまとめ(案)について>

各WGの主査から検討経過が報告されたのち、事務局からショートストーリーについての紹介が行われた。主なコメントの概要は、以下のとおり。

- 中間とりまとめでまとめられた課題はいずれも大変重要なこと。技術的な側面からも進めていくことが大事だということを説明し、それに向かって協力していこうというメッセージを出すことができたことは重要なこと。今後ともさらに多様な検討が必要。
- 今後の課題として、災害関係のシステムについては、壊れてしまったらなりたないの、いかにタフなシステムをつくっていくかということが重要となってくるのではないかと。
- (タフなシステム構築が必要との意見に対して) 中間とりまとめの中では、いつも使っているシステムを災害時にも使えるようにするということが盛り込まれており、これによって、仮に壊れても代替品をもってこることが容易になる。
- 今後、研究プロジェクトが、ショートストーリーの中のどの話と関係があったのかということがトレースできるように、工夫していくのがよいのではないかと。
- 日本と海外の取り組みについて、いくつかの軸で比べて、日本はどこが足りないのかということがわかりやすくなるようにしていくとよいのではないかと。
- 今回の研究会で全体像を示していただいたことで、各研究が全体像の中でどこに位置づけられるのかということがわかるようになったことが評価できる。

- ショートストーリーは、目立ちやすくするための工夫をしたほうがよいのではないか。ショートストーリーを活かすために、どういう工夫ができるのか、今後、検討していただきたい。
- ショートストーリーを通じて近未来の姿をイメージしてもらうためには、アニメ化、ドラマ化していくことも有効なのではないか。
- 今年度末にはE T S -Ⅷが打ちあがることになっており、ぜひ防災用のアプリケーションを開発しテストをしていただきたい。
- 中間とりまとめでは、将来の技術も見越して検討が行われたことがユニークだ。これからも、実証実験を行っていくうえでも、2010年、2015年に登場してくるであろう技術がどのようなものかという観点をもつことが重要だ。

委員、オブザーバからのコメントの後、中間とりまとめ（案）について、特段の修正なく承認された。

<議題（2）今後の進め方について>

事務局から、今後の進め方について説明が行われた。今後の進め方について、委員、オブザーバからの主なコメントの概要は、以下のとおり。

- 普及促進方策の議論においては、官と民の役割分担についても議論していく必要がある。
- 携帯端末を非常時にも使えるようにするという構想については、日本でだけでなく、世界的な標準化を進めていくことも考慮に入れていただきたい。

以 上